

キャラクター名
 四方山 青薔薇 (よもやま みはら)

プレイヤー名

シンドローム	ブラム=ストーカー エグザイル	ワークス	UGNチルドレンA	カヴァー	JK
オプション		年齢	16	性別	女性
覚醒	死	衝動	吸血	初期侵食率	35 %
出自	遺された子供	経験	青薔薇の子	邂逅	遺された2人

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	29
肉体	3	1	0			4	行動値	7
感覚	3	0	0			3	(非装備時)	7
精神	1	0	0			1	戦闘移動	12
社会	1	0	0			1	全力移動	24

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	6	1	射撃			RC	1		交渉		
回避	1		知覚			意志			調達	1	
運転:			芸術:			知識:			情報:	UGN	1
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
求めるは紅	白兵	4r+7	武器	武器		コスト6 装甲無視 CR2+乾きの主 コスト5 赫き剣+破壊の血 20+消費HP
		0	5			

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品		合計装甲:	0	合計回避:	0
訓練: 白兵					
ロイス					
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイム	消費	
亜純血	P 執着	N 猜疑心			
四方山 逢馬 (父)	P 慕情	N 隔意			
花屋敷 百合 (両親の幼馴染)	P 信頼	N 不安			
影上 代悟	P 憧憬	N 恐怖			
ことりちゃん	P 親近感	N 疑念			
ハッピーアドバイス	P/ハッピー♪	Nこいがほうふ。			
	P	N			
最大財産P:	4	残り財産P:	1		

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果: 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果: コスト分のHPで復活								
CRブラム	2	2	MJ	-	自身	対決	-	
効果: [Lv+2]D軽減								
Dがらんどうの肉体	1	3	Auto	-	自身	自動	ピュア	
効果: [Lv+2]D軽減								
デモンズウェブ	2	2	Auto	10m	単体	自動	80	
効果: [Lv+1]D軽減								
破壊の血	4	2	Mi	-	-	自動	Limit	
効果:								
赤き剣	5	3	Mi	-	-	自動	-	
効果:								
乾きの主	1	4	MJ	至近	単体	対決	-	
効果:								
ブラッドリーディング	★	-	MJ	至近	単体	自動	-	
効果: 血液・体液からその主の情報を理解出来る。大変甘美らしい。								
十徳指	★	-	MJ	至近	自身	自動	-	
効果: 血液を自在に変形させ工具のように扱う。学校の屋上を独り占め。								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

■プロフィール
 母『四方山 花子』の死、父『四方山 逢馬』の失踪から10年、両親の高校時代の幼馴染『花屋敷 百合』に引き取られかしましい日々を過ごすJK2。音楽部での活動に打ち込みながらも百合に立て替えてもらった楽器代を返すべくバイトに打ち込む充実した日々を過ごしている。

元バスケ部で食事は量は一倍多く、お弁当でもハンバーガーショップでもよく友人からおかずやらポテトやら恵まれている。

"そう、恵まれている。私は。だからこそ気にかかるんだ..."
 "恵まれている私は、ならどうして遺されたんだらうって..."

■邂逅
 「はあ、はあ……！アンタがそうなの、花子の子って……」
 母親『花子』の葬儀にも姿を見せない父親、幼い青薔薇を前に親族たちは押し付け合いを隠すことすらなかった。そんな中、息を切らして会場に飛び込んできた『花屋敷 百合』の手で式場から連れ出されてから11年……建築士であるキャリアウーマン『百合』のもとで人並みの生活を送っている。

■能力
 《Blood is the road to "I"/我が血は水よりも濃く》
 非常にシンプルな体液操作能力と思われる。戦闘面の他にも、自他を問わない治癒能力・不老不死の鍵優れた代謝管理など多様性を持つ高いポテンシャルを有する能力のはずだが、精度が非常に低くまた感情が昂った際に青薔薇の無意識に感応しているのが実情だ。

戦闘態勢下では能力者の胸部を中心に血液を球体状に停滞させ攻撃に備える。